



future power

～未来の新エネ社会をつくる一人ひとりの力～

再生可能エネルギーの導入拡大

持続可能型社会には 欠かせない再エネ。

ゼミで地域おこしを学んでいます。その一環としてバイオマス発電でエネルギー自給率100%のドイツの村を視察してきました。エネルギーの安定供給の観点からも化石燃料に変わる新しいエネルギーは必要であり、将来の持続可能型の社会を創っていくには再生可能エネルギーは欠かせない存在だと思いました。将来は、この見聞を活かし新エネ社会の構築に向けて尽力していきたいと考えています。



福島大学行政政策学類法学専攻
曽我 大和さん

水素社会実現のためのモデル構築

時代のニーズに マッチした 水素エネルギー。

当社は平成12年から太陽光発電に取り組み、2015年には市民が再生可能エネルギー発電を見学・体験できる2メガの大規模太陽光発電設備を福島市内に設置しました。総合エネルギー供給企業を志向する当社の次のビジョンとして、環境にもやさしく、時代にもマッチした未来のエネルギーである水素エネルギーを郡山市や福島市の都市部でも活用できないかと考えています。



株式会社アポロガス 専務取締役
相良 元章さん

スマートコミュニティの構築

新地駅周辺の 復興まちづくりと、 エネルギーの地産地消。

環境未来都市である新地町は、エネルギーの地産地消による「ハイブリッドな発電のまち」づくりを推進しています。相馬LNG基地の天然ガスを活用した熱電供給事業の展開に向けて、エネルギーセンターの建設とシステム構築に取り組んでおり、2018年度には駅周辺の公共施設や民間施設で運用開始する計画です。



福島県新地町企画振興課
泉田 晴平さん

暮らしに、地球にやさしい 再生可能エネルギーを活用した未来の水素社会



福島新エネ社会構想の取組について詳細を知りたい方は下記URLからご確認ください。

▶ http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/fukushima_vision/



福島新エネ社会構想 未来を創る 新たなエネルギーの先進地へ。

福島県を新たなエネルギー社会のモデル創出拠点とする
「福島新エネ社会構想」を2016年9月に決定。エネルギー分野から復興を後押しします。

再生可能エネルギーの導入を拡大するとともに、
再生可能エネルギーから水素を「作り」、「貯め・運び」、「使う」ための実証や、
県内各地でのスマートコミュニティ構築などをいま、推進しています。

2040年の
ふくしまへ

福島新エネ社会構想実現会議

新しいエネルギー社会を 福島から世界へ。

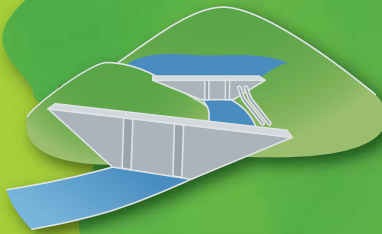
風力や太陽光などの再生可能エネルギーの導入拡大、
再生可能エネルギーを活用した世界最大級の水素製造設備による最先端の実証研究、
再生可能エネルギーや水素を活用したまちづくり。福島新エネ社会構想の実現に向け、
官民一丸となってこれらのプロジェクトに取り組んでいます。

水素社会実現のための モデル構築

水素は次世代のクリーンエネルギーとして注目
されています。いま福島では、再生可能エネ
ルギーから大規模に水素を製造し、輸送・貯蔵、利
用するという、最先端の技術実証に向けた取り組
みが進んでいます。2020年には、福島で作られ
た水素を東京2020オリンピック・パラリンピッ
クの際にも活用することを目指しています。



FCV(燃料電池自動車)



奥只見水力発電所

最大出力56万kWの一般水力発電所(揚水
発電所を含まない)としては国内最大出力を
誇る発電所です。

産総研福島再生可能エネルギー研究所(FREA)

FREAの使命は、「世界に開かれた再生可能エネルギーの研究開発の推進」と「新しい産
業の集積を通じ復興への貢献」。日本で唯一の再生可能エネルギーに特化した研究機関と
して、本格化する再生エネの大量導入を支える新技術の研究や、地元企業と連携した技術開
発を実施。2016年に世界最大級のパワーエレクトロニクス試験設備を開設し、地元の電
機企業とも連携してパワーコンディショナ等電力制御機器の開発を行っています。また、
大学との共同研究等を通して、将来を担う人材の育成も行っています。



地元企業 北芝電機との共同研究(EMC試験)

グリーン発電会津

木質バイオマス発電により生まれた電気を供
給。電力の安定供給と地域林業の活性化およ
び森林の持続的な再生という資源循環型社
会の実現を目指しています。



柳津西山地熱発電所

福島県で初めての大規模地熱発電所として
1995年5月から運転を行っています。



郡山布引高原風力発電所

猪苗代湖の南に広がる標高1,000mを超え
る布引高原に位置する、国内最大級のウイ
ンドファーム。一般家庭約35,000世帯分の年
間消費電力量に相当する約12,500万kWh
の電力を年間供給しています。



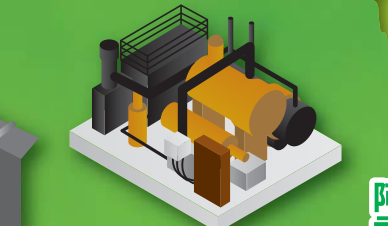
猪苗代湖周辺の 水力発電所群

1914年に運転を開始した猪苗代第一発電
所は、国内初の11万5千ボルトで、東京まで
の長距離送電に成功し、日本の近代化に貢献
した発電所です。



土湯温泉バイナリー発電所

福島市の南西部に位置する土湯温泉の温泉
熱を利用して、最大出力440kWのバイナ
リー発電機が稼働中です。

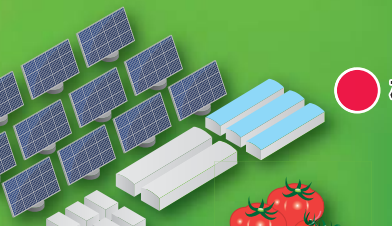


小型再生エネ水素ステーション (郡山市役所内) ※整備中



新福島変電所

東京電力による福島の再生可能エネルギー
受け入れのために変電所を改造・増強。



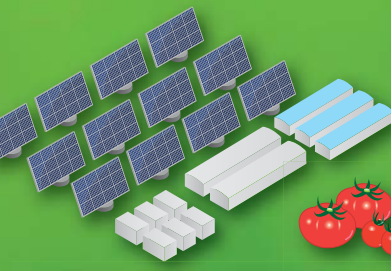
福島空港メガソーラー

産業技術総合研究所との連携により、多種多
様なパネルの長期運用・評価を実施するな
ど、再生可能エネルギーに係る必要なノウ
ハウと経験を蓄積しています。



とまとランドいわき 営農型ソーラー発電所

営農型として国内最大級の約1MWの発電
出力を実現。



南相馬変電所

再生可能エネルギー受入れのため、
2016年に東北電力南相馬変電所に大
容量蓄電システム(4万kWh)を設置し、
営業運転開始。



福島浮体式洋上 ウィンドファーム

福島県沖で世界初の複数基による浮体
式洋上風力発電システムの本格的な実証
を行っています。



再生可能エネルギーの 導入拡大

阿武隈山地・県沿岸部における風力発
電等の導入に必要な送電網の整備を新た
に送電会社を設立し、進めています。



阿武隈山地風力

県沿岸部風力

スマートコミュニティの構築

再生可能エネルギーや水素エネルギーを地域で上手に活
用する「スマートコミュニティ」の構築に取り組んでいます。
会津若松市では、太陽光発電を活用したスマートコミュ
ニティの構築が2015年度に完了しました。さらに、浜通りの
新地町・相馬市・浪江町・楢葉町などで、復興と合わせたス
martコミュニティづくりが進んでいます。

●…スマコミ形成プロジェクト実施市町村